

瀬戸内建築のたび

瀬戸内建築
Setouchi - Kenchiku

特集

瀬戸内海の 建築を巡る旅

「海をめぐる人々の営み」
をたどる3つの旅

序幕 呉の港 /
第1幕 行き交う海 /
第2幕 海と島の景 /
第3幕 陰なる島

人々の営みの中の建物

建築から見る瀬戸内海と



瀬戸内建築を巡る

のんびり、まったり、瀬戸内時間へようこそ。

瀬戸内海って面白い。

青い海に浮かぶ小さな島それぞれに、個性がぎゅっと詰まっている。ちよっとだけのんびりして、魅力あふれる町と人と建物をめぐる旅に出かけてみよう。



contents

序幕 呉の港	P.03-04
第1幕 行き交う海	P.05-06
第2幕 海と島の景	P.07-08
第3幕 陰なる島	P.09-10
「瀬戸内海の建築を巡る旅」レポート	P.11-12
「伝えたい!瀬戸内海のこと」 編集後記&アーキウォーク広島について	P.13-14

序幕 呉の港

船旅のはじまりは、大きな船のふるさと。





全国各地から集めたみなさん。



建築巡りの旅、出発！

瀬戸内海の建築を巡る旅



ぼくたちも呉生まれだよ。

音戸大橋と第2音戸大橋。アーチ部分は呉で作られた。



旅のはじまりは呉の港。

船に乗り込むと、目の前にどくんとたたずむ造船所のクレーンたちが見えた。呉は明治になってから重港として栄え、全国10大都市に数えられたこともあったらしい。昔は軍艦、今は貨物船。橋だって呉生まれ。

大きな船たちのふるさと。

ビルより大きい船、まっくらな潜水艦。いろんな船が行ったり、来たり。ながめていると、まだ見ぬ海の道へと期待は膨らむ。朝もやと静けさの港を横に見ながら船は次の島へと向かう。

朝鮮通信使が立ち寄った茶屋を管理した武士の家 侍屋敷、丸本家

さむらいやしき、まるもとけ

三之瀬に訪れるお客様達を接待したお茶屋さんを管理していた武士の住宅。250年も前に建てられた。



座敷飾りや襖(ふすま)、柱の仕上げが面白い。



特別な時だけ開かれる門。

小屋裏には大きな木の梁(はり)が。



石造りの地下隠れ部屋。



襖(ふすま)を開けると、小屋裏に続く階段が。



下蒲刈の大富豪の御殿

観欄閣 かんらんかく

さかきやせんじろう

土木建築の王様と呼ばれた榎谷仙次郎が昭和10年に建てた別荘。当時、町の人々は、この建物のことを「まるで竜宮城みたい!」と言っていたらしい。瓦1枚が当時の日当ぐらいたって言われるからその豪華さがわかる。



榎谷仙次郎のイニシャルのSSが。



海側から見た観欄閣。海に浮かんでいるよう。



装飾にも注目!



第1幕

行き交う海

船と一緒に「人」「物」「文化」が運ばれてきた町



着いた島は下蒲刈の三之瀬。海沿いの石畳を歩いていると、町の人々がすれ違うたびに温かくあいさつしてくれる。三之瀬はとても長い歴史のある港町。行き交う船はここに立ち寄り、旅の疲れを癒していたという。大名行列や朝鮮通信使を迎える中で生まれたおもてなしの文化は、今もこの町に息づいている。

しも かま がり



下蒲刈に一度来てみんさい!

呉観光ボランティアの会の船田さんと海駅三之関の藤江さん。下蒲刈の人々はみんな温かい。



石畳がおもしろい。



マンホールも手が込んでます。



長雁木 ながんぎ

ふくしままさのり

江戸時代に福島正則が作った、町のシンボルとして愛されている雁木。西国大名や琉球・朝鮮・オランダの大使が下蒲刈へ立ち寄る際にこの雁木から上陸していた。当時は長さが約113m(今の2倍)もあったことから、大きな港町だったことが想像できる。

第2幕 海と鳥の景

建物から見る瀬戸内海と、瀬戸内海から見る建物

大三島

おおしま

大三島には船のような建物や、斜面に合わせて段々になった建物、円形の建物や、古い校舎がある。その周りに広がる、青い空と緑の山やオレンジ色のみかん畑の風景がとってもきれい。アートの触れるのももちろん、景色に見とれてゆったりしたり、写真を撮ったり、のんびりとした時間が過ごせる。

建物から見る瀬戸内海は絶景!



ところミュージアム大三島

ところみゅーじあむおおしま



- ①ところミュージアム大三島外観
- ②建物横の海に向かう斜面地
- ③瀬戸内海を一望できるテラス
- ④ノエ・カツのキッシング・ドア
- ⑤展示空間横の外階段

今治市岩田健母と子のミュージアム

いまばりしいわたけんははとこのみゅーじあむ



- ①白い円形のコンクリート壁に囲まれた展示空間
- ②ミュージアムの入口と建物の形のロゴ

大三島ふるさと憩の家

おおしまふるさとこいのいえ



- ①校舎の廊下
- ②旧宗方小学校の木造校舎を利用した宿泊施設

今治市伊東豊雄建築ミュージアム

いまばりしいとうとよおけんちくみゅーじあむ



- ①スティールハット外観
- ②斜めの壁が面白い展示空間
- ③自然光が差し込む白空間
- ④半屋外のシルバーハット
- ⑤「みんなの家」が展示されている



第3幕 陰なる島

海に浮かぶ工場島

契島 ちぎりしま



竹原の沖から海を眺めていると、ぽっかりと浮かぶ軍艦のようなものを見つける。よくよく見ると、それはまるごと工場の島。もくもくする煙と褐色の建物がかっこいい。

地図から消された島

大久野島

港に着くと、かわいいうさぎがお出迎え。このどかな島、実は地図から消されたことがあるらしい。なぜかという、戦時中、使用が禁止されていた毒ガスの製造工場があった秘密の島だったからだ。今も島にはたくさんさんの戦争遺跡が残されている。

なぜかウサギがたくさん。



大久野島、別名「うさぎの楽園」



建物の中に差す自然光。

外れかけた窓。



発電場跡

はつでんじょうあと

8基の発電機が設置され、毒ガス工場へ送電していた。建物内は広く、戦争後期には大きな風船爆弾が作られていたという。今は、むき出しの鉄骨とコンクリートが味を出す廃墟となっている。

長浦貯蔵庫跡

ながうらちよどうこあと



毒ガスが100tも入るタンクが6基置かれていた。戦後、火炎放射器で除毒されたため、建物内はすすで真っ黒になっている。

砲兵の仮眠舎

ぼうへいのかみんしゃ



毒ガス工場になる前は、芸予要塞の1つとして砲台が設置されていた。ここは、兵士の休憩所。ロシアから輸入されたとされる赤れんがのつくりが重厚感を漂わせる。

契島、ぐるり一周で発見!!





① 呉の港を出発!
船から大きな船を発見!!
これは何の船かな?

「瀬戸内海の建築を巡る旅」レポート!!

アーキワーク広島は、2012年3月17日にせと観光ボート主催で「瀬戸内海の建築を巡る旅」を開催しました。

呉港出発・三原・尾道解散で、瀬戸内海の島々を巡る日帰りツアー。当日の様を、地図と写真で振り返ります!



⑦ 旅のラストは大久野島
今も残る近代遺跡を見に行くと、瀬戸内海の島の歴史も知ったよ。



② 音戸大橋を見上げる!
「ヤーレー、ヤーレノー」
音戸の舟唄で船頭さんの気分。

- 船から見る。
- 歩いて見る。
- ごはんを食べる。



⑥ 軍艦のような島発見!
船だから実現?
裂島を一周し、島の裏側も見ることができたよ。



2階屋上デッキから瀬戸内海の建築・島々を楽しんだよ!



⑤ 大三島で現代建築を楽しむ
伊東豊雄建築ミュージアムのスタッフ東さんに建物の話を聞いたよ。



③ 侍屋敷、丸本家を訪問
みんなで座敷に集まって、丸本家の当主から侍屋敷の話聞いたよ。



④ 御手洗によりみち
お昼ご飯を食べ、古い町並みが残る御手洗の町を散策したよ。

編集後記

「瀬戸内建築のたび」お読み頂きありがとうございます。

読んで頂いた方に「瀬戸内海の建築巡りの旅って楽しそう!」「瀬戸内海にちよつとでかけてみたい!」そう思ってもらえたら嬉しい制作でしたが、いかがでしたか?

建築巡りの旅は、建築そのものだけでなく、建築を通して、その周辺の土地の魅力を再発見する旅だと思っています。

今回のクルーズでは、建築マニアでなくても、歴史好きな人、町並みが好きな人、自然が好きで、廃墟が好きで好きな人など、若男女問わずそれぞれの楽しみが見つかることが分かりました。そして、我々スタッフも、改めて瀬戸内海の多様な魅力を知りました。

瀬戸内海は広いです。また、奥が深いです。アーキウォーク広島は、今後、瀬戸内海各地で活動されているいろんな人と会って、話して、つながって、もっと瀬戸内海を



大三島での打ち合わせの様子



旅の参加者全員集合!

アーキウォーク広島副代表 吉原俊朗

知りたいと思っています。皆さんも、瀬戸内海に足を運んでみて下さい。そして、皆さんそれぞれの視点で、瀬戸内海の新しい魅力を探してみして下さい。面白い発見があったら、アーキウォーク広島にも教えて下さいね。最後になりましたが、今回のクルーズ実施にあたり、広島県海の道プロジェクトチームをはじめ、多くの関係者の皆様のご協力を頂きました。ここに改めて御礼を申し上げます。



アーキウォーク広島

アーキウォーク広島とは、建物というキーワードで広島の街をより魅力的にしていけるための活動を行う市民団体です。

【WEBサイト】
<http://www.oa-hiroshima.org>
【facebook】
<http://www.facebook.com/awhiroshima>

イベント等のお手伝い頂けるスタッフ(ボランティア)を募集しています。建物や街に関心をお持ちであり、企画趣旨にご賛同頂けるのであれば、専門知識等は不要です。なお、当方の状況によりご参加を一時お待ち頂く場合がありますので、予めご了承ください。

瀬戸内建築のたび

2012年3月 初版発行

■発行：アーキウォーク広島

■企画・編集・執筆：高田 真・吉原 俊朗・山本 剛志・今田 雅

■取材・撮影：高田 由美・石本 太郎・牛谷 陽一・大村 隆
川上 こなつ・福馬 晶子・松本 富美・吉岡 佑樹
南川 智子

Special Thanks/

岡本 壮弘さん (せと観光ボート有限会社)、
船田 孝興さん (呉観光ボランティアガイドの会)、
東 浩章さん (今治市伊東豊雄建築ミュージアム)、
椿さん、升井さん、松村さん、黒瀬さん、光原さん、岡さん、
広島県海の道プロジェクトチームの皆様、
クルーズ参加者の皆様 and more.....

伝えたい! 瀬戸内海のこと

「都会にない、 瀬戸内海の建築の魅力」

高田 真 たかた まこと

広島市の建築公開イベントを開催する
アーキウォーク広島の代表。



アーキウォークは普段広島市内をフィールドに活動しています。瀬戸内海地域では(直島のように新しく建てるケースは例外として)有名建築家のキャッチーな建築作品はごく少ないものの、海をめぐる人の営みの蓄積やその悠久の歴史が培った木造建築の名品は都会にはない大きな魅力です。

おっかなびっくり瀬戸内海に漕ぎ出してみて、その可能性や開拓余地がよく分かったし、まだまだ知らないことだらけなのも分かりました。今回立ち寄らなかった地域も含めて、まずは自分たちが知ることから始めるべく、海通いを始めようと思っています。

「自分たちの身近な空間を いかに感じ、育てていくか」

東 浩章 ひがし ひろあき

今治市伊東豊雄建築ミュージアム
建築専門スタッフ。



ひよんな縁から2011年夏に横浜から大三島に引越してきました。瀬戸内海の魅力は何と言っても多島海の美しさ。そして、その海に抱かれた心優しい人々。すぐに虜になりました。ニュータウンで育った私には、住宅地と言えば様々なスタイルでお行儀よく並んだ家並みですが、大三島では同じ黒い瓦屋根が陽光を受けながら斜面に広がっています。その風景のいかに美しいことか!

ミュージアムでは現代建築はもちろん、自分たちの身近な空間をいかに感じ、育てていくか、そんなワークショップも行いたいと考えています。その時はぜひ大三島に来てください。

瀬戸内海には海・島・人々の営み・歴史・建築・文化など一言で表せない様々な魅力があります。今回の旅にご協力いただいた立場の異なる4名から瀬戸内海の各地域の魅力や課題・今後の活動についてお話を聞きました。

「人情味溢れる、 おもてなしの町下蒲刈」

船田 孝興 ふなだ たかおき

呉観光ボランティアの会の下蒲刈の
ガイド。元仁方下蒲刈フェリーの船長。



下蒲刈の魅力はなんといっても人。町のみんなの絆が強く、人情味があるんですよ。たくさんのお客をおもてなししてきた下蒲刈。私も、下蒲刈に来て下さるお客様に安心してもらって、また来たいと思ってくださるようなおもてなしの心を持って案内したい。いろんな地域から来られるけい、みんなに合わせてガイドしながら対話するのも面白いね。

生まれも育ちも下蒲刈だからわかる事がある。この町が大好きだから町や人の魅力をこれからも伝えていきたいね。

「一分一秒でも 無人島化を遅らせたい」

岡本 壮弘 おかもと まさひろ

瀬戸内海の船会社、せと観光ボートの
旅先案内人。



瀬戸内海の魅力は海と島とそこに住む人々の生活の中から出てくる美しさ。それに魅かれて観光客がやってくるのだと思います。しかし、現在、瀬戸内海にある約160の有人島は、30年後には、ほとんどが無人島化するという問題があります。人がいなくなると歴史ある建物の維持管理だけでなく、島の魅力を伝える人や島を訪れる観光客がいなくなります。

船に乗る事で初めて見えてくる瀬戸内海の違った一面を発信し、無人島になりつつある島々の魅力を観光客に感じてもらいたい。そして、島の活性化を図り一秒でも無人島になる事を遅らせたいと思っています。